

【背景・目的】

- ・ITの発展を背景としたサプライチェーンの高度化、生産、市場のグローバル化などにより、物流に求められる役割の変化：物を動かすことから企業経営における全体的な視点から戦略的に物流の効率化、高付加価値化を図ることへ
 - ・物流の「効率化」と「高付加価値化」を図るための企画提案ができる「高度物流人材」の確保・育成が求められている：
- ①「高度物流人材」の確保・育成の取り組み、②物流分野を支える人材の裾野を広げる為の取り組み、のあり方を検討実施

【調査研究内容】 調査研究期間：2019年度～2020年度

- ・ 文献・ヒアリング調査：▶大学における物流教育関連コース・カリキュラムの特徴、企業における物流部門の位置づけ 等
- ・ アンケート調査：▶物流教育、高度人材育成確保に関する意識調査 等

○調査研究結果の概要○**海外と日本での高度物流人材教育の状況比較（文献・ヒアリング調査）**

- ・ 大学における物流・ロジスティクス・SCMコース設置：▶（海外）多数・大規模 （日本）少数・小規模
- ・ 企業における物流・ロジスティクス・SCM分野への役割認識：
 - ▶（海外）経営上重要な役割との認識（日本）企業経営上重要と認識する企業もあるものの弱いままの企業もあり
- ・ リカレント教育環境：▶（海外）一般的に実施（日本）実務経験を経てから大学等で学び直しをしにくい状況 等

日本の企業、大学への「意識調査」（アンケート調査）

- ・ 学ぶべき時期：▶ 企業では中堅社員、中間管理職までの継続的習得に集中傾向
- ・ 期待水準：▶ 物流企業よりも荷主企業の方が高かつキャリアの早い段階での習得を期待
- ・ リカレント教育：▶ 企業では期待大、実施には人材不足、時間不足等の課題 等

【まとめ：日本における高度物流人材の育成・確保のあり方について】

- ・ 学ぶべき内容と期待されるスキル▶理論x実践の両輪、文理横断型での学び
- ・ 日本が現状抱える課題、現状を踏まえた育成、確保のあり方について（提案）
 - ▶大学における「科目等履修制度」、オンライン、プラットフォーム等の活用に活路を